

書く!描く!撮る!子どもたちが作るローカルマガジン

こどもローカルマガジン
COLOMAGA project
コロマガプロジェクト 伊豆市



KURURA

未来の伊豆をデザインする
子ども達とプロが創る情報誌

10
号記念

2022
Vol.10



特集
1

伊豆で“のんびり”癒されよう

贅沢にリラックス
和の魅力 柳生の庄
紙漉き/なごみの湯/古民家カフェ
みんなの身近な癒し

特集
2

伊豆で“きらり”輝く人

世界から伊豆にランナーを呼ぶ仕掛け人
伊豆の隠れた有名人
伊豆から世界を目指す中学生サーファー
夢は世界チャンピオン

10周年記念企画

1 KURURA制作実行委員会 委員紹介

2 KURURAの歩んできた10年間



こどもローカルマガジン
COLOMAGA
コロマガプロジェクト
伊豆市 project

KURURAは伊豆市の子ども達と様々な分野で活躍するプロ達との
コラボレーションにより制作された地域のガイドブックです。



未来の伊豆をデザインする子ども達とプロが創る情報誌

くら KURURA

2022年12月発行 発行人 KURURA 制作実行委員会 〒410-2407 静岡県伊豆市柏久保1304 1F(伊豆市若者交流施設《9izu》内)

こくみん共済 COOP 地域貢献助成事業
支援：アーツカウンシルしずおか

KURURA

2022.12 / vol.10

タイトル/題字 海聖・崇翔・翼・陽大
KURURA Vol.1 メンバー
伊豆市立修善寺南小学校卒業生

今年のテーマは



伊豆ブランドと聞いて想像するものは何ですか？

伊豆には豊かな自然、おいしい水、地域で輝いている人など魅力的なところがたくさんあります。ただ高級なものではなく、「自慢できるもの」「誇れるもの」を今回は「伊豆ブランド」と題して紹介します！

特集1 伊豆で“のんびり”癒されよう

- 04 | 贅沢にリラックス 和の魅力 柳生の庄
- 06 | 紙漉き／なごみの湯／古民家カフェ

特集1-2

08 | みんなの身近な癒し

特集2 伊豆で“きらり”輝く人

- 10 | 世界から伊豆にランナーをよぶ仕掛け人 伊豆の隠れた有名人
- 11 | 伊豆から世界を目指す中学生サーファー 夢は世界チャンピオン
- 12 | 10周年記念企画① KURURA 制作実行委員会 委員紹介
- 14 | 10周年記念企画② KURURA とCOLOMAGA project の歩んできた10年間
- 16 | COLOMAGA Summit Vol.2 レポート
- 17 | Izu City Guide Map
- 18 | 編集後記
- 19 | COLOMAGA Project の活動について



イラスト/ 暁之介



COLOMAGA 伊豆市版



「伊豆の魅力をもっと伝えたい。」
をコンセプトに活動しています。

この冊子は、伊豆市の子どもたちが、自分たちの住んでいる町を大人たちと一緒に、調べて、聞いて、まだ地元の伊豆人たちが気づいていない伊豆の魅力をもっと伝えようと思い、クリエイターと一緒にコラボレーションで創った伊豆の情報誌です。この冊子の名前「KURURA(くるら)」は、来るよね？来るでしょ！を表す伊豆地方の言葉で、vol.1制作時の、小学5年生の男の子たちのチームが名付けてくれました。

こどもローカルマガジン
COLOMAGA
コロマガプロジェクト project

わたしたちは、
このコロマガプロジェクトを通して
こんな社会を実現していきたいと
思っています。



ふるさとを
自慢できる
子どもたちが
増えること

子どもたちの
創造性・独創性を
育み活かす機会が
増えること

ふるさとに住みたい、
ふるさとで働きたいと思う
子どもたちが増えること

「デザインのカ」
を理解できる
子どもたちが
増えること

大人と子どもが
一緒に何かを創り出す
関係が増えること

「この活動いいね」と思ってもらえたら
応援をお願いします！

この活動は有志による非営利事業です。
【法人の方へ】
次世代を担う子どもたちの育成は、CSR活動やSDGsの推進の一環にもなり、企業としての社会的な責任を果たすことが出来ます。ぜひご相談ください。

【個人の方へ】
自分のくらす「まち」を好きになり、故郷を自慢できる子どもたちを応援するこの活動の応援をお願いします。

ご寄付の振込先
静岡銀行 修善寺支店 普通口座 0446730
口座名義：KURURA制作実行委員会
連絡先：izukurura@gmail.com

お振込みの場合はお名前と連絡先をメール等でお知らせください
※応援特典
・冊子とホームページにお名前を掲載します(ご希望の方)
・子どもたちからお礼の手紙をお送りします
・冊子の完成発表会にご招待します



コロマガは「ESD」の実践活動

2013 年度に産声をあげたコロマガは、子どもたちがこの制作を通して地域に愛着や誇りをもち「持続可能な社会を創りたい」という気持ちを育てられる実践的な活動と言えます。この「持続可能な社会の創り手を育てる教育」が ESD(Education for Sustainable Development) と呼ばれているものです。同じ頃、2015 年国連サミットで世界のリーダーが集まって 2030 年までの目標を定めました。これが SDGs(Sustainable Development Goals) といわれる 17 の目標と 169 のターゲットからなるものです。今、世界中でこの目標を達成するために産・官・民・学のあるゆる機関を上げて取り組んでいます。そしてこの SDGs を達成するためのエンジンが ESD であるといわれています。

子どもたちの未来のためにみんなでコロマガの取り組みを応援してください。
ESD-J 理事 大塚明

KURURA の詳しい活動についてはこちら
www.izukurura.com

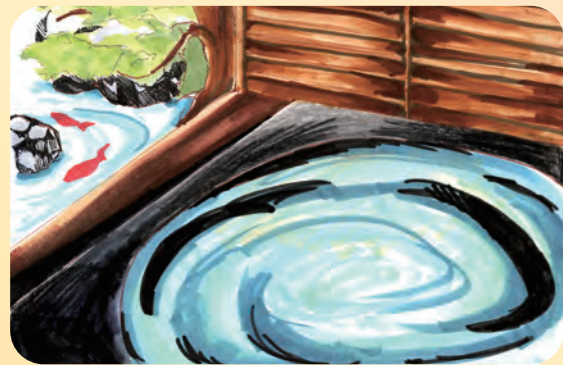


インスタやってます！
www.instagram.com/izuni_kurura

伊豆で“のんびり”癒されよう

柳生の庄は建物や部屋がすごいだけじゃないんです。修善寺温泉ならではの、お風呂もすごいです。
柳生の庄にある全15部屋には部屋によって違う3種類のお風呂があります。ヒノキのお風呂、石風呂、左官づくりのお風呂です。左官づくりとは木のわくに土や砂などを流し平らにしてかべを作ることです。お風呂としては珍しいのですが柳生の庄ではこの左官を使ってお風呂を作っています。また上下左右

みているだけで癒されるお風呂



風呂の高さをそろえたりして工夫をしています。
また柳生の庄には大浴場の「むさしの湯」と「つうの湯」があります。この「むさし」とは、有名な宮本武蔵のことです。これらは吉川英治さんに関係しています。吉川英治さんは小説家で、「宮本武蔵」などの本を出しています。そしてその作中に柳生の庄は出てきます。このことから、この名前がついたそうです。この二つはお風呂の大きさがちがうため時間で男女入れ替えになっています。またこのお風呂でも自然でいやされる

INFORMATION

【柳生の庄】
伊豆市修善寺 1116-6
TEL: 0558-72-4126



癒あみたい！

自然を眺めながらの寛やかな時間



ことができます。
今はコロナでお客様は減ってしまっていますが、私たちも伊豆の歴史を感じ、いやされながら取材を行うことができました。皆さんも伊豆でいやされてみませんか？

仲居さんとは？

仲居さんとは、身の回りの世話をしてくれる人です。私は苗字かと思っていました！仲居さんは、お客様のペースに合わせて料理を出してくれます。私みたいに食べるのが遅い人にはありがたいですね！

季節・月ごとに料理内容が変わる！

柳生の庄に何回か行ったことのある人、気づきましたか？私は献立が変わることすら知りませんでした！びっくりです。こんなにたくさんの献立を考えるのは大変だと思います。だけど月ごとに変わるのなら、どんな献立が出るのかすごく楽しみです！

女将さんのお気に入りとは？

女将さんのお気に入り自家製シャーベット！ほわほわ～としていておいしいそうです！いいですね！私も食べてみたいです！
部屋・食事・風呂、おもてなしが最高だと思います！食事は、地場産のものを使っているそうです！なので、興味がある人は毎日百円貯金して、1年半で泊まりに行きましょ～！私も、行きたいので、頑張って貯金して行きたいです！！



いよいよ、お楽しみです！



贅沢にリラックス 和の魅力

やぎゅうのしょう 柳生の庄



取材/N+S³ 文/雫羽・菜奈・千伶 写真/七海・雫羽 イラスト/七海・雫羽

伊豆最古の温泉地『修善寺温泉街』の奥に、静かにたたずむ高級旅館

贅沢にリラックス 和の魅力

外観から伝わる落ち着いた雰囲気とにじみ出る高級感、着物を着ていた時代の上品で美しい日本が頭に浮かびました。修善寺の高級旅館、柳生の庄さんです。
ここでは、和から離れたつづある今の時代で「飽きられない旅館」を目指しており、和を大切にしているそうです。建物全体を「数寄屋造り」という茶室の様式を取り入れた建築様式になっているのが特徴で、船底の形の



天井、独特な模様の柱……。日本の技術で作られたからこそその迫力が豪華さを引き立てていました。お部屋に行くとき少し違った落ち着いた作りのもので、自然が堪能でき、リラックスできます。そんな日本の技術がたくさん見られます。また東日本で唯一、完全な数寄屋造りの建物があるんです。和洋を合わせないところは珍しいようなので、数少ない完全な数寄屋造りを体験してみてください。
そんな和を愛する柳生の庄ですが、ところどころに海外のものを取り入れているのだから。例えばエレベーターのクッション。女将さん自ら海外から取り寄せたものです。和を大切にしているのに海外？その疑問の答えは社長と女将さんの思い出でした。海外で経験を積んでから日本文化を学んだ女将さん。海外でいいと思ったものも取り込んでいっているそうです。お二人は地元を飛び出して戻ってくることはいいことだと口を揃えて言っていました。経験をとことん活かす素敵な旅館です。
無くしてはいけない和の文化を主に、新たなものを取り込む柳生の庄には驚きの連続。ぜひ体感してみてください。



完全な数寄屋作り。なんと東日本ではここだけ！

修善寺紙谷和紙工場の紙漉き

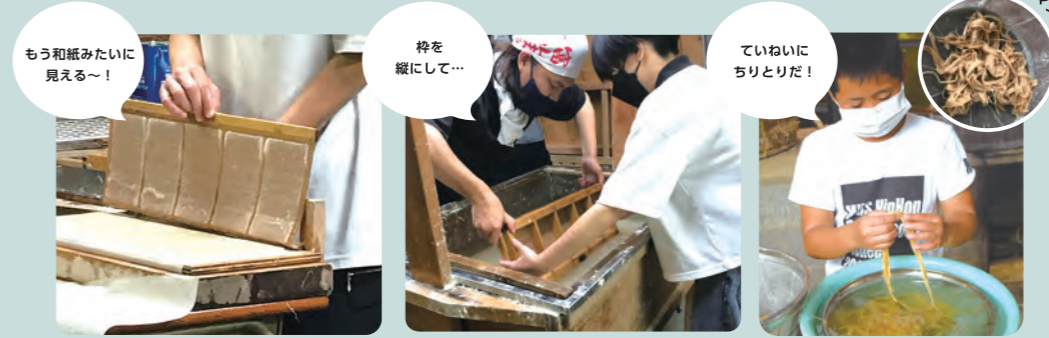
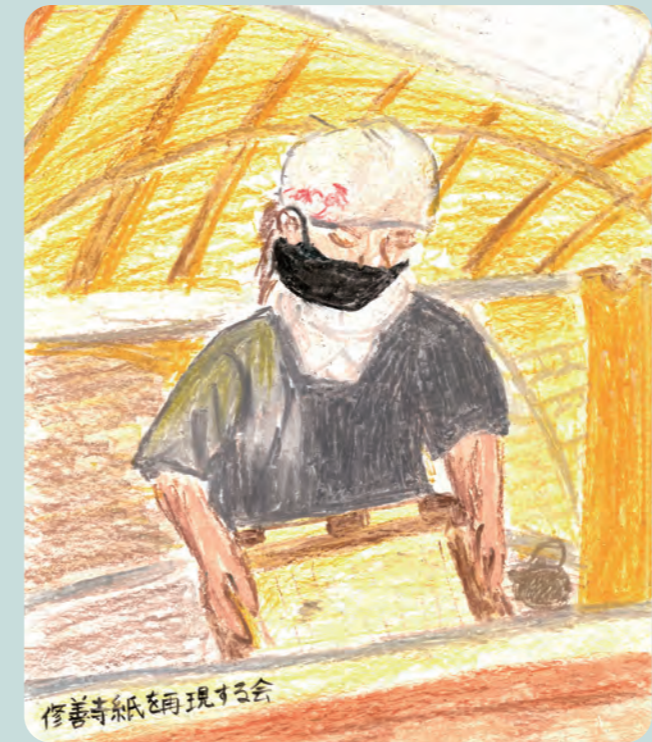
取材/KAMISUKI 文/優 写真/丞・他 イラスト/明音・美翠



古くから修善寺で漉かれる「修善寺紙」。里山にある工房での紙すき体験で癒されること間違いなし！

INFORMATION

【修善寺紙谷和紙工場】
伊豆市修善寺 1302-1
TEL: 050-3699-4284
washi.kamiya.shuzenji@gmail.com
体験・見学希望の際は、事前にご連絡ください



もう和紙みたいに
見える～！

枠を
漉にして…

ていねいに
ちりとど！

蒸したミツマタ！

ぼくは、修善寺紙谷和紙工場の取材に行つていろいろなお話を聞きました。まず、紙をつくるまでの作業です。はじめに材料の木（ミツマタ）をかり取ります。次にかり取った材料を蒸します。次に蒸した材料の皮をはぎ取ります。次にその皮をにます。次ににた皮を「ちりとど」します。ちりとどというのは、にた皮に茶色っぽい汚れがある場合があり、そのよこれを取ることで、次にちりとどした皮を大きな木の棒でたたきます。次に紙をつくります。紙をつくらしたらその紙をプレスして水をしぼり取ります。次に水をしぼり取った紙を板にはつてかんそうさせます。かんそうさせた紙がかわいたら板からはがして完成です。このように紙をつくるまでいろいろな作業があることがわかりました。それから紙をつくるのに材料を育てるのもいれると約三年かかるそうです。紙を一枚つくるのに三年もかかるとは思わなかつたので、びっくりしました。そして、紙をつくるのはすごく大変なんだということがわかりました。

いろんなものに
使われてるよ！



湯の国会館

取材/Acqua 文/優那 写真/の夏・善 イラスト/萌花・百叶

湯の国会館の歴史は、平成元年からだそう。そのため、昔ながらの雰囲気、取材をしている時も暖かさといこちのよさを温泉のようにポカポカと感ぜられました！

温泉の種類もとても豊富で、露天風呂は季節が感じられたり、温泉の水風呂だったり、他にない魅力もついています。特に第三土曜日の女湯はバラ風呂になっていて、クレオパトラのようなリッチなひとときを味わえます。湯の国会館の温泉には、お肌と心の両方を潤す力があるようです！近年流行しているコロナ対策も万全でした。ぜひ心と体安らぐひとときをこ体験ください！



ソフトクリームも
湯の国会館で
味わえる！



【湯の国会館】
伊豆市青羽根 188
TEL: 0558-87-1192
営業時間: 10:00~21:00
定休日: 第2・第4水曜日

湯船からの
景色にも
癒される～

つい
はつたりしちゃう

気持ちよさそう～

伊豆で"のんびり"癒されよう

古民家カフェ hasama café

取材/TRYKA 文/彩華 写真/瑞紗・孝太郎・他 イラスト/孝太郎・結仁

私たちがドアを開き、店内に入った時、どこか懐かしい風が私たちをかんげいしてくれました。山のふもとにたたずむ「はさまカフェ」さんです。

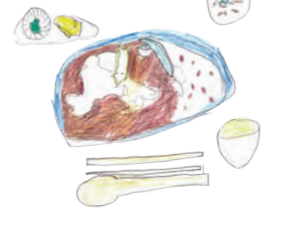
はさまカフェにはなつかしく感じる「理由」があります。例えば、昔のカギです。「昔のカギ？なにそれ？」と思う人も多いと思うので簡単に説明すると、つまむ部分があつて、そこをつまみながらひねります。そうすると、カギがかります。このような昔のものがたくさんあります。その他にも、絵本がメニューに



昔の作り全開の
気持ち良い
廊下！



なつていたりわくわくがたかさんあります！
「ご飯には野菜がふんだんに使われていて女性にもおすすめです！ぜひ来てみてください！」



【古民家カフェ hasama café】
伊豆市中原戸 68
TEL: 0558-83-1172
営業時間: 11:00~15:30
定休日: 日・月・火・水曜日

ご飯もおいしい！

It makes you feel relaxed



21.



20.



17.



16.



12.



7.



4.



2.



1.



18.



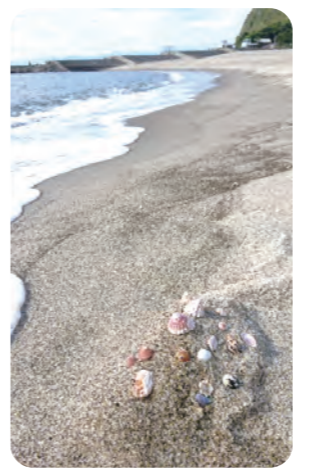
13.



8.



5.



9.



6.

- 12. 自然が生み出した奇跡の滝
- 13. 橋の近くの春
- 14. 透明度のいい海しか勝たん
- 15. 自然とともに生きている私たち
—修善寺竹林の小径
- 16. 私と一緒に育ったわさび
- 17. フィナーレ
- 18. おもしろい形の流木を見つけました
- 19. 朝のあいさつ
- 20. 一面に広がる緑の風景
- 21. 滑沢渓谷 まさに水色
- 22. オレンジ色の夏
- 23. のどかな田んぼ
- 24. 水面と私たち



19.



14.



10.



23.



22.



24.



15.



11.

- 1. 歴史のある「上(かみ)の家」
- 2. 六仙の里で読書
- 3. 映えるハス
- 4. 見たらきっとチルくなる！な滝
- 5. かわいいペンチみい〜つけた♪
- 6. 青い海と真っ青な空 - 恋人岬から
- 7. 一日の終わりののどかな時間
- 8. 世古峡 宝石色の川
- 9. 貝の城
- 10. 影踏み
- 11. 常連さん

SHIZUOKA
伊豆ブランド
特集 1-2

みんな
の
身近な癒し

It makes you feel relaxed

写真/ 暁之介・彩家・楓・孝太郎・雫羽・千怜・
のの夏・萌花・美翠・結夏・結仁



3.

みんなの身近な癒し

伊豆で
"キラリ"
輝く人

Check!

人気のサーフィンスポット



ふだんはこんなに穏やかな海なのに…



足立海世さん

3歳からサーフィンを始め、小学校6年の時「第54回全日本サーフィン選手権大会キッズの部」で優勝。オリンピック選手を目指し日々練習を重ね国内各地の大会で活躍中。天城地区在住、中学3年生。



同世代への取材って、ちょっと照れくさい感じ…!

夢は世界チャンピオン

伊豆から世界を目指す中学生サーファー

取材 /Acqua
文 / のの夏
写真 / 善・のの夏
イラスト / 萌花

「夢は世界チャンピオン」
そう話してくれたのは、今国内で大活躍中のサーファー、足立海世さん。彼は現在中学3年生で、学校とサーフィンを両立して頑張っています。私は彼と幼なじみで、3歳のころからの付き合いです。そんな私でも知らなかった話を、今回たくさん聞くことができました!

今では週4日ほど海に行っ練習をするそう。取材をした日も、直前まで海に行っ練習していたそう。彼の主な練習場所は下田の白浜というところですが、この日は台風が近づいていたこともあり、普段は波が穏やかな伊豆の別の海に波乗りへ。ここは台風の

Check!

全国各地の大会で活躍!



写真提供: Kaisei Adachi

時だけしかできないので、年に数回できるかどうか。県外からも人が集まる人気のサーフィンスポットの海が好きで、天城に移住してきたそう。伊豆にそんなサーフィンスポットがあったなんて知らなかったのが、驚きました!海世さんは全国の海に行っています。が、やっぱり伊豆の海が一番好きだそう。伊豆の海は水も砂浜もきれいで、そういうところだとモチベーションも上がるそう。

彼の自分の強みは、「ハワイなどに行っているため、大きな波が得意なこと」。小学4年生のころからハワイなど海外の海にも行くようになり、そこで練習を積み重ね、日本の大きな波にも対応できるようになったそうです。そんな風に夢に向かって行動する力がすごいなと思いました!
挫折しそうなこともあったら、どうでも自分の夢である「世界チャンピオン」になるためなら、なんでも頑張れちゃうそうです! そんな未来の世界チャンピオンを、みんなで応援していきましょう! 伊豆市出身のオリンピック選手が誕生するのもそう遠くないかも…?!

SHIZUOKA 伊豆ブランド 特集2

伊豆で"キラリ"輝く人

「伊豆にはこんなにすごい人がいるんだよ!」とみんなに紹介したい! 地域のために頑張っている人、いきいきと活動している人、伊豆の明るい未来を担うキラリと輝く人たち取材しました。



千葉達雄さん

トレイルランニングレースの世界で超人気の「伊豆トレイルジャーニー(ITJ)」「ウルトラトレイルマウントフジ(UTMF)」等を企画・プロデュース。アウトドア事業で持続可能な伊豆の地域活性を目指す(株)ソトエ代表取締役プロデューサー。



今年はこんなコース

伊豆の隠れた有名人

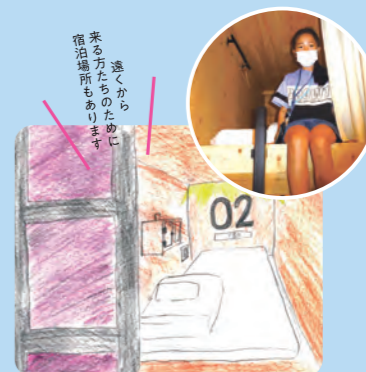
世界から伊豆にランナーをよぶ仕掛け人

わたしたちは、「伊豆トレイルジャーニー」を企画・プロデュースした千葉達雄さんにお話を伺いました。そしてたくさん質問をさせていただきました。ぜひ読んで、伊豆には「キラリ」輝く人がいるということを知っていただきたいと思います!
まず伊豆トレイルジャーニーの説明です。松崎から修善寺まで走破する約70kmのトレイルレースで、毎年多くの人が世界中から集まっています。コロナ禍でも出場者だけでなく全国からボランティアが来るくらい人気です。なぜ千葉さんが伊豆トレイルジャーニーを企画したかというと、「新しい伊豆の旅の創造をしたかったから」だそうです。簡単に言うと、伊豆の新しい旅行コンテンツを作りたいからです。私はこれを聞いて、すごく伊豆のことが好きなんだなと思いました。

そんな千葉さんが思う伊豆の魅力は2つほどあって、1つ目は「東京に近い」です。人が来やすいから

らだそう。2つ目は「小さい」です。どういうことかという例えは西伊豆の森と修善寺の森とでは生える植物が全然違ったり、森だけでなく海もあつたり…と変化が豊かということ。私は伊豆の魅力と聞かれても自然が豊かとしかでてこないで、そういう目線もあるのか…!と思いまし

この記事を読んでいる人の中にも伊豆トレイルジャーニーに出てみたい!という人がいるかもしれない。(18歳以上でないといれませんが)ゼロから始める場合、どれくらい時間がかかるのかも聞いてきました。30km走る場合は1年、160kmは3年練習だそう。長く続ける意思が大切なので、出たい人は頑張ってください!けれど、頑張ることってめんどくさかったりしますよね。千葉さんも頑張ることは苦手だそうです。なので自分が熱中できることを仕事にし、自分で決めたことをやった



遠くから来る方々のために宿泊所もあります

最後に千葉さんは地域にとって「繋げる」存在になりたいそう。す。まちづくりを行政に依存するのではなく、たくさんの人と話す機会がある千葉さんは、人と人とを繋げる縁の下の力持ちになりたいと話していました。
みなさん、千葉さんのことを少しは知れましたか?伊豆にはこんな素敵な人がいます。少しでも興味が出たら調べてみてください!

取材 /SANTORE
文 / 明瑠
写真 / 結夏・楓
イラスト / 暁之介



[ITJ BASE Shuzenji]
伊豆市修善寺955-1
TEL: 0558-88-9572

2022年は12月に開催予定!
公式 Youtube、facebookで情報やイベントもお知らせ!

Youtube/
IZUTRAILJourney[OFFICIAL]

facebook/
https://www.facebook.com/izutrailjourney



10周年記念企画①

KURURA 制作実行委員会委員紹介

今年で10周年を迎えた KURURA。活動を記念して、いつも陰ながら支えてくれている実行委員会の方々にインタビューしてきました。どうしてこの活動に関わるようになったのかや、KURURAに対する思いを聞いてきました。

10th Anniversary



KURURA 発起人
COLOMAGA Project 代表

浅井由剛さん

COLOMAGAプロジェクトの発起人である浅井由剛さん。COLOMAGAプロジェクトを作ったきっかけは、伊豆市修善寺南小学校で行っていたデザインの授業でした。「多くの人が子どものうちからデザインに関わる機会をつくりたい」という浅井さんの願いから、地元である静岡県の学校でデザインの授業を始めたそうです。その中で、「情報雑誌をつくってみよう」というテーマで、このKURURAが生まれたそうです！そして、KURURAに参加した子どもは、自分の生まれ育ったところが好きになってくれたそうです。「そんな子どもたちが大人になって、その活動を思い出してくれたらその先のヒントになる」というのを聞いて、なるほどなあと思いました。「地元を良くしようと思う人が増えること」がCOLOMAGAプロジェクトの目標になっているそうですよ！！

現在、KURURAは10年目。浅井さんはあと30年ほど続けたいそう。30年後には私たち(15歳)の年代で、自分の子どもがいるかもしれない。その子どもたちが、KURURAに参加できるくらい続けていきたいそうです！まずは、各都道府県に1つ。ゆくゆくは海外進出も…！?これからのCOLOMAGAプロジェクトがもっと楽しみになってきました！

取材/子ども編集部 文/の夏 写真/の夏・萌花



KURURA 制作実行委員会 代表

川口敦さん

私たちKAMISUKIチームはKURURA代表の川口さんにインタビューしました。

Q.KURURAにはなぜ入ろうと思った？

川口さんは元々伊豆市未来塾の観光チームという、伊豆市の観光をどうしたらもっとたくさんの人に知ってもらえるのか？という活動の中で、KURURAに出会って同じ活動だったことから一緒に活動するようになったそうです。

Q.KURURAを作っているときにうれしいことは？

印刷の仕事は、お客さんの言われたとおりにしなくてはいけないけれど、KURURAはみんなで行って、記事を書いていて、KURURAを作っている子ども達の日々の成長が嬉しいそうです。

Q.この先どうしたい？

この活動に参加してくれた子どもたちが実行委員となって10年、20年と続けていくことが目標だそうです。

私は、川口さんのお話を聞いてKURURAの事がこれまで以上に深く知れてよかったです。

取材/KAMISUKI 文/明音 写真/丞



KURURA 制作実行委員会 事務局
COLOMAGA Project 事務局長

高橋いづみさん

私たちTRYKAチームが取材したのは、高橋いづみさんです。まず、いづみさんについて紹介します。いづみさんは、KURURA制作実行委員会の事務局スタッフで、子どもローカルマガジンプロジェクト“COLOMAGA PJ”の本部事務局長です。そしてとても穏やかな人です。

私は今年初めてKURURAに入りましたが、いづみさんははじめから笑顔で、緊張がほぐれました。なので、とてもいい人です。そんないづみさんですが、KURURAへのこだわりが強い人です。

こだわりその1「自分で取材する」

メンバーが自分で見て、感じて、触って、聞いて、かいて、そうやって実際にやって制作する。そういったことです。

こだわりその2「楽しく活動する」

学校じゃないので、“楽しい！”と思ってほしい。それと、「子ども達がやりたいと言ってくれたものはかなえてあげたい」というのもこだわりです。

私は、いづみさんのことをまだ詳しく知れていなかったもので、よかったです。

いづみさんが気になった方は、KURURAに入ってみてはいかがでしょうか？

取材/TRYKA 文/彩華 写真/孝太郎・瑠紗



KURURA 制作実行委員会 事務局

新田はるみさん

私たちが取材したのは新田はるみさんです。はるみさんはKURURA第2回から参加している大ベテランです。今回の取材ではKURURAの歴史など興味深いことを語ってくれました。

はるみさんはもともと、「伊豆市未来塾」に所属していました。伊豆市未来塾とは、平成17年から若者に対して地域の活性化を目的とした実践型まちづくりワークショップです。(要するに地元を元気にしようということです。)そこから生まれたのがKURURAと深くかかわりがある「こども未来塾」です。

「大人になった時、伊豆市の良さを発信できる人材に育ててほしい。」という思いから開催したそうです。やっているこ

とは切り絵をやったり木でお皿を作ったりと、KURURAと少し似ています。ですが体験後は感想を書いたり、絵を描いたりして紙にまとめていて、記事にはしていませんでした。ある時、KURURA制作活動をしているNPOサブライズさんと共感することが多く、一緒に活動をするようになります。そして今のKURURA制作実行委員会ができました。

KURURAは今年で10冊目。1冊目がでたとき、私はまだ3、4才でした。はるみさんは、「故郷を自慢できる子どもを増やしたい。」という思いでKURURAの制作活動をしています。私も将来、故郷「伊豆」を自慢できるようになりたいです。

取材/SANTORE 文/明瑠 写真/結夏・楓



KURURA 制作実行委員会 顧問

大塚明さん

いつも機材準備をしてくださる大塚明さんは、天城中学校の元校長先生。大塚先生が愛称です。そんな方がなぜKURURAに？謎多き大塚先生に話を伺いました。

今回の話は天城中学校で生徒が人との繋がりが希薄である事、自尊心が低い事を感じて起こした大きな行動が軸になります。その行動とは、天城中学校がユネスコスクールに加盟した事。簡単に説明すると平和を築き、持続可能な社会のために行動する学校の事で、世界中に広がっています。静岡県では初の加盟校。生徒に地元の素晴らしさを知ってもらい、地域に誇りや愛着を持つことが目的で、KURURAで活動してる理由とも繋がっているそうです。

では実際に何をしたかということ、総合学習の中で福

祉・自然・職場体験、修学旅行、地域学習の流れで学習をし、学習を通じて自分の課題を持つ。課題解決のために行動を起こすことで自尊心を高めていくのです。効果は抜群。例として、ブナの木が鹿に食べられている現状を知った生徒達が鹿の防護柵を立てようと考え、行動したそう。全国平均以下だった自尊心も全国以上に。生徒が持続可能な社会を理解すると共に行動する事の大切さを学んだのです。

大塚先生が今、子供達に必要なと思うのは「答えの見えない21世紀を生き抜く力」。地域の現状を学び、自分で課題を考える事が答えの見えない未来を生きる為に必要だと語っていました。その話を聞き、私は総合学習の受け方が変わりました。大塚先生の考え方が全国の学生に届いてほしいです。

取材/N+S 文/千伶 イラスト/千伶・七海



10th Anniversary KURURA

10周年記念企画②

子ども編集部とは

文：子ども編集部

編集会議

子ども編集部会議では、参加メンバーが書いた原稿、イラスト、撮影した写真などが足りているのか？内容に合っているのか？などを考えています。冊子になる前の原稿が見られるのは子ども編集部の特権です！

「高校生になっても伊豆の魅力を届けたい」という想いから2017年に発足し6年目を迎えました。当初のメンバーは vol.2から参加している高校生と中学生の3人。毎年世代交代しながら、パワーアップした視点でワクワクするアイデアを膨らませています！

講座の運営

初回やクリエイターさんたちの講座の時に、スムーズに進められるよう司会進行をしています。そして、ワークで困っている子たちがあればサポートなどもしています。講師の方からの質問に積極的に答えたり、大人スタッフの仕事を手伝ったりしています。

完成発表会

年間の活動最後の大事な仕事である完成発表会。慣れてきた運営の仕事に名残惜しさを感じながら、当日の準備や運営、司会等、精いっぱい取り組みます。完成したKURURAを先陣切って一般の人に配ることはなかなか慣れません。

講演活動

子ども編集部を伊豆エリアや三重県四日市市の倫理法人会に講師として呼んでいただきました。KURURAの活動がどんなものか、参加して学んだことは何かなどをたくさんの大人の前でお話してきました。



コネクトチームとは

文：コネクトチーム

冊子の全体企画

各年度の冊子全体の企画、主にテーマ・取材先の検討をします。どんな人に読んでもらいたいか、何を伝えたいかを考えてテーマを決めたり、取材に行きたいところを提案して、その中からテーマに合った場所はどこかを決めていきます！

参加者、子ども編集部を経験したメンバーが「まだまだKURURAに関わりたい」という想いで仲間を集め、2020年に発足しました。参加者、子ども編集部、事務局を「つなぐ」チームとして現在大学生6人で活動しています。

資料作成

メンバー募集の資料、講座で使うアンケート用紙や、パワーポイントの作成もコネクトチームが担当しています！参加者のみんながワクワクするようなデザインを意識して、フィードバックをもらいながら作成しています！

COLOMAGAサミットの企画や代表者会議への参加

毎年秋に開催されるコロマガサミットの企画・運営に向けた会議を行ない、楽しみながらコロマガで学んだ取材力や発信力を生かせるゲームを中心に内容を考えています。また、各地区の事務局の方にサミットの説明をするため代表者会議にも参加しています！

COLOMAGAサミット

サミット当日は企画した内容をもとに、全体進行やゲームの説明を担当します。会場とオンライン参加者が楽しくアイデアを出し合い、地域間での関わりを持つために、子どもたちのサポートやSNSも活用しています！



KURURA history

KURURAとCOLOMAGA pjの歩んできた10年間

2012 発起人浅井が伊豆市立修善寺南小学校で「デザインと地域活性と教育をつなげた活動」、「自分たちの町のロゴを作ろう」、「地域のMAP作り」の授業を実施

2013 vol.1 伊豆市立修善寺南小学校の授業で前年度の内容をさらに深めたローカルマガジン「KURURA vol.1」を制作

2014 vol.2 伊豆市全域に対象を広げて参加者を公募しての活動を開始

2015 vol.3 「KURURA制作実行委員会」が発足し、以降事務局となる

2016 vol.4 東京都文京区が同様の活動開始

2017 vol.5 参加メンバーOBの中学生・高校生による 子ども編集部 発足

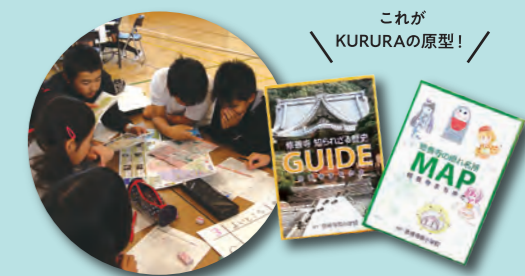
2018 vol.6 全国展開を目指し活動名を「COLOMAGA Project」とし、KURURAは「伊豆市版」という位置づけになる経産省「キッズデザイン賞」受賞
子ども編集部が倫理法人会等で初の講演

2019 vol.7 日本新聞博物館主催 企画展に文京区版 MITAMIYO!!と共に出版
静岡県伊豆の国市版・山梨県北杜市版・広島県広島市&廿日市市版 活動開始

2020 vol.8 OBを中心とした大学生が KURURAコネクトチーム を結成
静岡県沼津市内浦西浦版 活動開始
コネクトチームの企画運営で全地域間の交流を図る「コロマガサミット0」実施

2021 vol.9 「コロマガサミット vol.1」実施
長野県安曇野市版 活動開始

2022 vol.10 「コロマガサミット vol.2」実施
静岡県富士宮市、富士市、神奈川県鎌倉市、大阪府南部版 活動開始



Izu City Guide Map

伊豆市

標高1,000メートルを超える天城山から伊豆で一番大きな川、狩野川が流れ修善寺・中伊豆・天城・土肥のすべての地域で温泉が湧き西は駿河湾にも面している私たちのまち、伊豆市



伊豆市ガイドマップ | 地図製作者 栞奈

- ① 小土肥海水浴場
P08-09
伊豆市小土肥 279
- ② 修善寺紙谷和紙工房
P06
伊豆市修善寺 1302-1
TEL : 050-3699-4284
- ③ ITJ BASE Shuzenji
P10
伊豆市修善寺 955-1
TEL : 0558-88-9572
- ④ 柳生の庄
P04-05
伊豆市修善寺 1116-6
TEL : 0558-72-4126
- ⑤ 湯の国会館
P07
伊豆市青羽根 188
TEL : 0558-87-1192
- ⑥ 古民家カフェ hasama café
P07
伊豆市中原戸 68
TEL : 0558-83-1172

こどもローカルマガジン COLOMAGA

vol. 2

コロマガサミット Vol.2 レポート

コロマガサミット Summit

report



後ろのスクリーンには5つのサテライトが!

わたしたちコネクチームがみなさまをおもてなし!



子ども編集部もお手伝いです!

サミットとは年に一度、コロマガプロジェクトに参加している子どもたちが集まる交流会です! KURURAコネクチームが企画・運営を担当しています。サミットの内容はインタビュー、イラストを描く、写真を撮るなど冊子づくりで身につけたスキルを使う企画になっています。普段は会うことのできない他の地域の人たちには、どんな素敵なお話があるのか知ることができる機会にもなります。2020年にスタートし今年で3回目となります(1回目は、キックオフの意味で「vol.0」としました)。

文 / 安池凜 (コネクチーム)

今年も無事に開催できました「COLOMAGA サミット」のご報告です!

計9地域が参加し、伊豆市、伊豆の国市、沼津市西浦内浦、文京区が伊豆市内の会場に、安曇野市、鎌倉市、富士市、富士宮市、北杜市とは中継でつながり、レクリエーションを通して各地域の魅力を伝えました。参加した子供たちは、取材や記事・イラストの制作で身につけたアイデア力や話し合う力を発揮しながら、企画に楽しんで取り組んでいました!



今年もオンラインで、9地域が繋がりました!

YES/NO クイズ

質問を重ねて答えを導き出すゲームで、取材で身につけた質問力が試されます!

ほめほめ対決

各地域の特産品や活動の様子を写真と動画で工夫して撮影、投稿し、「いいね」数を競いました!

インスタいいね対決

離れた場所で自分たちと同じような経験をしている人に会えることは、子どもたちにとって貴重な体験です。画面越しでも紙に書いて会話したり、身振りで伝えたり、たくさんコミュニケーションがとれました!

活動報告

子ども編集部とコネクチームの仕事内容についてインタビュー形式で活動報告しました!

質問の内容と答えをメモメモ!

どんなことをしているか答えます!

他の地域の冊子のいいところを見つけ、それを本人たちが直接伝え合いました!

また、限られた時間で話し合っただけで答えを出したり何かを作ったりするのは大変ですが、一人一人が積極的に取り組もう、考えようとするのがコロマガプロジェクトに参加する子供たちのステキなところです。それぞれのグループが考えた個性豊かな投稿を見せ合っただけで笑ったり、お互いの冊子をほめ合ったりして楽しむことが出来たコロマガサミット vol.2 でした!!

こどもローカルマガジン COLOMAGA project

Point 1

子どもたちが自分のまちを取材し冊子を作る。

『COLOMAGA(コロマガ)』は、こどもローカルマガジンの略。子どもたちとプロのクリエイターが自分の“まち”を取材し、ローカルマガジン(地域情報誌)と一緒に作る非営利の活動です。現在、東京都、静岡県、山梨県、長野県などの1都2府5県14エリアが参加し、地域を超えた交流も行っていきます!

Point 2

見て聞いて感じたことをプロに学び、創造する。

自分たちが住む“まち”をもっと知るために、実際に足を運んで子どもたちが取材をします。プロのクリエイターに素材づくりのノウハウを教わりながら、写真を撮ったり、イラストを描いたり、文章を書いたりして、目で見て聞いて感じたことをカタチにしていきます。みんなの集めた情報をプロが冊子にまとめて完成です!

Point 3

子どもも大人も地域を知り繋がるきっかけに!

子どもたちが世代を超えて出会う人々と交わすコミュニケーションは、かけがえない思い出や体験。“まち”の魅力を知れば知るほど好きになり、自分の居場所になっていく。“まち”のために何ができるだろうと考える人がひとりでも多く育って欲しい。『COLOMAGA Project』はそんな想いで活動しています。



私たちの活動は、SDGsの「No.4-質の高い教育をみんなに」「No.11-住み続けられるまちづくりを」を実現する実践者として、ESD-J(持続可能な開発のための教育)の「未来を変える人づくり」活動として高く評価されています。2018年、経済産業省が制定した「キッズデザイン賞・子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門」にて受賞いたしました。

各地域で続々とコロマガ活動エリアが拡大中!!



創刊号の発刊を目指して、進行中エリア!
静岡県富士宮市、静岡県富士市、神奈川県鎌倉市、大阪市南部 など



各地域のメンバー紹介
バックナンバー読めます!

企業・団体・個人さまとのコラボ募集中!!

立ち上げ・応援・視察・講演・コラボなど、コロマガはさまざまなカタチで参加することができます。詳しくは公式サイトよりお問い合わせください。



2022年10月 SITE OPEN!!

COLOMAGA Project 公式ウェブサイト

各地域ごとに有志が集い、資金調達にも日々励んでおります。ご支援のほど、ぜひお待ちしております。

編集後記

参加してくれた COLOMAGA Project 伊豆市版 KURURA のメンバー



10年目を迎えて

KURURA 制作実行委員会 代表 川口敦
目標としていた10号が完成しました。今まで参加してくれた子どもたち、応援してくれた地域の皆さま、そして活動に共感していただき子どもたちにレクチャーしてくれたクリエイターの皆さまにお礼申し上げます。ありがとうございました。『伊豆を担う子どもたちを育てたい』という当初の目標を達成する為に、これからもこの活動を暖かく見守っていただければと思います。

KURURA 制作実行委員会 事務局 COLOMAGA project 事務局長 高橋いづみ
10年目...ここまでは平たんな道のりではなく、参加者を募るのも、毎年活動資金を得るのも、1年1年手探りで、実行委員メンバーと共に1つ1つ乗り越え、気づいた子どもたちはすっかり成長し、他地域にも広がり、多くの人に認めてもらえる活動になりました。まだまだ、試行錯誤しながら楽しみながら続けて行けたら。引き続きご支援いただけたら幸いです。

COLOMAGA project 代表 浅井由剛
このプロジェクトをはじめるとき、周りにも自分たちにも「10年間続けよう!」と約束しました。このプロジェクトに関わった子どもたちが大人になって、自分たちの夢を追いかけている時、きっとここでの活動が自分の中で生きていることをわかってくれると信じて、次の10年を続けていきたいと思えます。きっと世界に広がる活動だと信じて!

子ども編集部 大石桜子(編集長)・鈴木ちひろ(副編集長)・高橋の夏(副編集長)
岡田七海・熊川萌花・永田千怜・小野寺翠羽・山崎結夏

コネクトチーム 内田陽仁・小林舞・高橋こなつ・安池凜・新田愛琳
坂ノ上こはく

KURURA 制作実行委員会



Special Thanks

クリエイティブワークショップ講師
取材講座: 静岡新聞大仁支局長 小澤佑太郎さん
ライティング講座: フリーライター 有川美紀子さん
写真講座: フォトグラファー 武智一雄さん
イラスト講座: イラストレーター HELEN さん

制作: KURURA 制作実行委員会
特定非営利活動法人NPOサブライズ
こども未来塾
クリエイターチームカラフル

デザイン: 株式会社カラーコード【浅井由剛・黒澤夏子・為壮京子】

イラスト: 【表紙】七海 【裏表紙】彩華

後援: 伊豆市、伊豆市教育委員会
ESD-J(NPO 法人持続可能な開発のための教育推進会議)

問い合わせ: KURURA 制作実行委員会事務局
〒410-2407
静岡県伊豆市柏久保 1304 1F 伊豆市若者交流施設 9izu 内
TEL 0558-99-9120

協力: 9izu、ホテルフォーレ修善寺
いさぶや印刷工業株式会社、ぬましん COMPASS 修善寺、
鈴木奈仁子、田足井美帆、長岡善章(株式会社アーティスティックス)、
COLOMAGA Project 本部&各地域版事務局
*順不同・敬称略

協賛: 伊豆中央倫理法人会、うさぎ薬局修善寺店、自然療法サロンミモザ
鈴木いたけ園、田方地区労働者福祉協議会、滝尻わさび園
(株)にしはらグループ、堀江歯科、マリンスターション・マーボウ
*五十音順・敬称略

サポーター: (KURURA ファンクラブ新規会員)
岡田明子、小澤佑太郎、扇谷陶子、十倉亜沙美、長岡善章、匿名の方々
※五十音順・敬称略 2021年12月~2022年11月

ごみん共済 coop 地域貢献助成事業
支援: アーツカウンシルしずおか

アーツカウンシルしずおとは
「アーツカウンシルしずおか」は、まちづくりや観光、国際交流、福祉、教育、産業など、社会課題への対応や地域の活性化を目指す住民主体の創造的な活動を支援します。